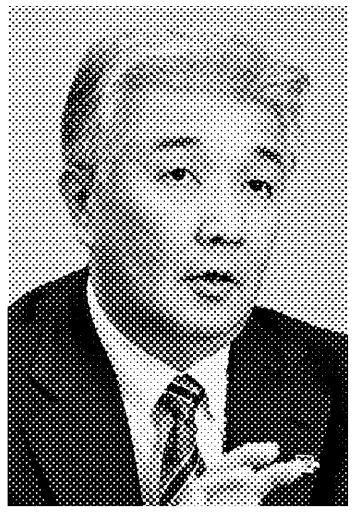
半導体関連で成長加速

周辺装置の新製品群開発

荏原社長　**細田 修吾氏**



荏原は旺盛なＡＩ（人工知能）需要を追い風に、半導体関連事業が好調だ。化学機械研磨（ＣＭＰ）装置などを手がける精密・電子事業が業績をけん引する。受注高は同事業のほか液化天然ガス（ＬＮＧ）関連投資の拡大を背景にエネルギー事業も堅調。需要増に対応するための先行投資も進めている。今後の成長戦略について細田修吾社長に聞いた。

―ＣＭＰ装置などの増産計画は。

「ＣＭＰ装置は２０２３―25年の前中期経営計画期間に増産投資を進めてきたため、キャパシティーとしては30年ごろまで対応できる想定だ。しかし半導体関連の事業は異次元のスピードで拡大している。28年ごろなど早めに次の投資計画を考え、先行的に動く必要がある。コンポーネントの増産投資計画は26―28年の中計に入っており、きちんと実行できれば市場拡大にも対応できる」

―先行的な技術開発も求められます。

「顧客が求める時に提供できる準備ができていなければならない。競争優位性を付けておく必要もある。主力のＣＭＰでは、技術が求められる機械設置時の調整作業をＡＩを用いて効率化する機能を入れる。拡大傾向にある周辺装置の需要増にも対応するため、新たな製品群の開発も進めている」

―ＬＮＧのプラントでは圧縮機（コンプレッサー）の駆動方式がガスタービンから電動モーターに移行しています。どう捉えていますか。

「我々の強みを発揮できる機会だ。ガスタービンを持つメーカーはコンプレッサーも売ることが多い。当社のコンプレッサーは性能が同等かそれ以上であるにもかかわらず、ガスタービンを持っていないために失注してしまうことがあった。一方、モーターメーカーがコンプレッサーをセットで売ることはない。当社がモーターを仕入れて提案すれば、当社のコンプレッサーの性能で勝負できる。米ジュネット工場では試験設備を増設するなど、トレンドに先行して準備している」

―試験設備にも力を入れています。

「米ジュネット工場では電気設備を大規模改修し、業界最大級の実負荷コンプレッサー試験機能を備える。水素分野では、実際の液体水素を用いて実物大のポンプの試験ができる施設『イーハイテック』を全面稼働した。顧客の現場ではなく出荷前に自社で試験できると、顧客の安心感や我々の競争力向上につながる」

記者の目

信頼性と競争力底上げ後押し

荏原はアフターサービスの強化にも力を入れる。精密・電子事業では韓国と台湾で26年にコンポーネントのオーバーホール拠点の拡充を予定する。エネルギー事業では米ヒューストンのサービス拠点を拡張した。試験設備だけでなく、支援体制の整備でも顧客の信頼性向上や競争力強化を後押しする。（楠由萌）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社